

X線一般撮影装置 清掃・消毒ガイド

「取扱説明書 (2B621-481JA*R) 」第10章 より、抜粋。

10. 7 清掃

使用後は各装置、オプションおよび室内を清掃してください。

清掃を清掃業者などに委託している場合は、下記の警告、注意の内容を必ず指示してください。

- ⚠ 警告**
- (1) 血液が付着した場合など消毒が必要な場合は、「10.8 消毒」をご覧ください。え、適切な消毒作業を行ってください。
 - (2) 全装置の電源を切った状態で清掃してください。電源が入っていると誤作動の原因となり、事故を起こすおそれがあります。また、引火性のガスや液体が装置内部に入った場合、火災や爆発を起こすおそれや、感電のおそれがあります。
 - (3) 装置に洗剤や水をかけたり、噴霧したりしないでください。装置の内部に入ると、故障や事故の原因になります。
 - (4) 床に、水や洗剤などの液体をまかないでください。装置に液体がかかったり、ケーブル配線溝に液体が入ったりすると、故障や事故の原因となります。

注意 装置の清掃にシンナやベンジンなどの溶剤や、コンパウンドなど研磨剤を含む物を使用しないでください。拭いた部分が白く曇ったり、キズが付いたりすることがあります。

- (1) 装置の清掃

中性洗剤を付けた布巾で、汚れを拭き取ってください。

 - ・中性洗剤は、洗剤メーカーが指定する濃度に薄めて使用してください。
 - ・布巾は、洗剤が垂れないように固く絞って使用してください。
 - ・汚れを拭き取った後、乾いた布巾で乾拭きしてください。
- (2) 室内の清掃

室内のゴミやチリを、掃除機で吸い取ってください。また、床を水拭きする場合は、水が垂れないように固く絞ったモップや布巾を使用してください。
- (3) 天板マット用カバーの洗濯

カバーの内側が表側になるようにめくり返し、洗濯してください。また、次の点に注意してください。

 - ・水温は 95℃以下で洗濯してください。
 - ・塩素系漂白剤による漂白、ドライクリーニング、およびアイロン掛けはできません。
 - ・乾燥機を使う際は、低温設定にしてください。
 - ・天板マットは洗濯できません。(1) 装置の清掃に従って清掃してください。

10. 8 消毒

消毒の専門知識を有する方の指示に従って、各装置および付属品や組み合わせ装置表面の消毒作業を行ってください。

警告

- (1) 感染を防ぐため、次のことをお守りください。
 - (a) 血液が付着したなど消毒が必要な場合は、適切な消毒作業を行ってください。
 - (b) 操作者や患者が触れる部分は、患者ごとに消毒してください。また、その他の部分も毎日消毒してください。
- (2) 装置に消毒剤や洗剤または水をかけたり、噴霧したりしないでください。装置の内部に入ると、故障や事故の原因になります。
- (3) 全装置の電源を切った状態で消毒してください。電源が入っていると誤作動の原因となり、事故を起こすおそれがあります。また、引火性のガスや液体が装置内部に入った場合、火災や爆発を起こすおそれや、感電のおそれがあります。
- (4) 消毒後は、室内を十分換気してから、電源を入れてください。
室内に引火性のガスが残留していると、電源を入れたときに、火災や爆発を起こすおそれがあります。

- 注意**
- (1) 次のような消毒剤を使用しないでください。装置に損傷を与えます。
消毒により損傷した装置は性能および安全性を保証できません。
 - (a) 塩素系消毒剤など金属やゴムに対して強い腐食性を持つ消毒剤
 - (b) 消毒剤の取扱説明書に、金属・プラスチック・ゴムおよび塗装のうち一つでも、使用が不適と注意書きのある消毒剤
 - (c) ホルマリンガスやスプレータイプのように、装置内部に入り込むおそれのある消毒剤
 - (2) 装置の消毒は最小限にするように心がけてください。長期間の消毒により、外装に退色やひび割れが起こる場合や、ゴムやプラスチックが劣化する場合があります。消毒により装置に変化が現れた場合は、直ちに装置の使用を中止し、最寄りのサービスセンタに修理を依頼してください。

(1) 消毒剤

この装置は次の消毒剤が使用できます。使用する消毒剤の取扱説明書で、使用上の注意および消毒剤の特性を十分確認してから使用してください。

- ・ グルタラールアルデヒド
- ・ 塩化ベンザルコニウム
- ・ 消毒用エタノール

(操作パネルやカバーなど、合成ゴムや合成樹脂の消毒には使用しないでください。)

(2) 消毒方法

消毒剤を含ませ軽く絞った布巾で、装置の表面を拭いてください。

このとき、装置内部に消毒剤が入らないように注意してください。

10. 9 滅菌

このシステムを滅菌処理することはできません。

滅菌が必要とするときは、滅菌キャップや滅菌シートなどを使用してください。